

イマザモックスアンモニウム塩液剤 パワーガイザー液剤	取扱メーカー： B A S F 原体メーカー： B A S F
成分： イマザモックスアンモニウム塩……………0.85% その他 PRTR 該当成分： ポリ(オキシエチレン)= アルキルエーテル(PRTR・1種)…5.0%	性状： 淡黄色澄明水溶性液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 雑草が発生してから散布できるため、散布時期を逃さずに散布作業ができる。
- だいず、えだまめ、あずぎの出芽直前から出芽揃期まで使用することができる土壤兼茎葉処理除草剤である。
- 一年生広葉雑草に極めて高い効果を示す。
- 豆類に対して、高い安全性が確認されている。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 雑草発生始期から2葉期頃までの散布が適している。
- 雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を逸さないように散布する。
- 土壤処理効果が小さいため雑草の発生前処理では除草効果が劣るので処理時期に十分注意する。
- 土壤が極端に乾燥している場合には効果が劣るおそれがあるので適湿な時に均一に散布する。
- 処理後に降雨の予想される時は使用をさける。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 展着剤は加用しない。
- 砂土では使用しない。
- 有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は薬害のおそれがあるのでさける。
- 高薬量又は初生葉期以降の散布では薬害を生じるおそれがあるので使用量、使用時期を厳守する。
- 豆類以外の作物に対して微量で影響を与える可能性があるため、有用作物が近隣にある場合には散布時の飛散などに十分注意する。また、薬剤散布後にタンク、ホース、ノズルなどに薬液が残らないように2回以上洗浄する。
- 適用作物（だいず、あずぎ、いんげんまめ、えだまめ）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（有用植物）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………



【適用と使用法】

作物名	適用 雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	イマザモックスアンモニウム 塩を含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
あ ず き	一年生 広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期 ～発生揃期)	200 ～ 300 ml	100 ℓ	1 回	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	2 回以内 (畦間処理は 1 回以内)
		生育期 (雑草発生揃期 ～2 葉期) 但し、 収穫30日前まで				畦間雑草茎葉 散布	
いんげんまめ		出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～ 発生揃期)				雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	
		生育期 (雑草発生揃期 ～2 葉期) 但し、 収穫30日前まで				畦間雑草茎葉 散布	
さやいんげん		出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～ 発生揃期)	200 ～ 300 ml	100 ℓ	1 回	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	1 回
だ い ず	一年生 雑草	出芽直前～3 葉期まで (雑草発生始期～ 2 葉期) 但し、 収穫30日前まで				畦間雑草茎葉 散布	2 回以内 (畦間処理は 1 回以内)
えだまめ	一年生 広葉雑草	出芽直前～出芽揃期 (雑草発生始期～ 発生揃期)			1 年 間に 1 回	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	1 回
		出芽揃期 (雑草発生始 期～発生揃期)					2 回以内 (畦間処理は 1 回以内)
お う ぎ		生育期 (雑草発生揃期 ～2 葉期) 但し、 収穫60日前まで				畦間雑草茎葉 散布	
		出芽前(雑草発生始期)					
甘 草		萌芽前～萌芽揃期 (雑草発生始期～ 発生揃期)	300 ml		1 年 間に 1 回	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布	6 回以内 (1 年間に 2 回以 内 (畦間処理は 1 回以内))
		生育期 (雑草発生揃期 ～2 葉期) 但し、 収穫60日前まで				畦間雑草茎葉 散布	